

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

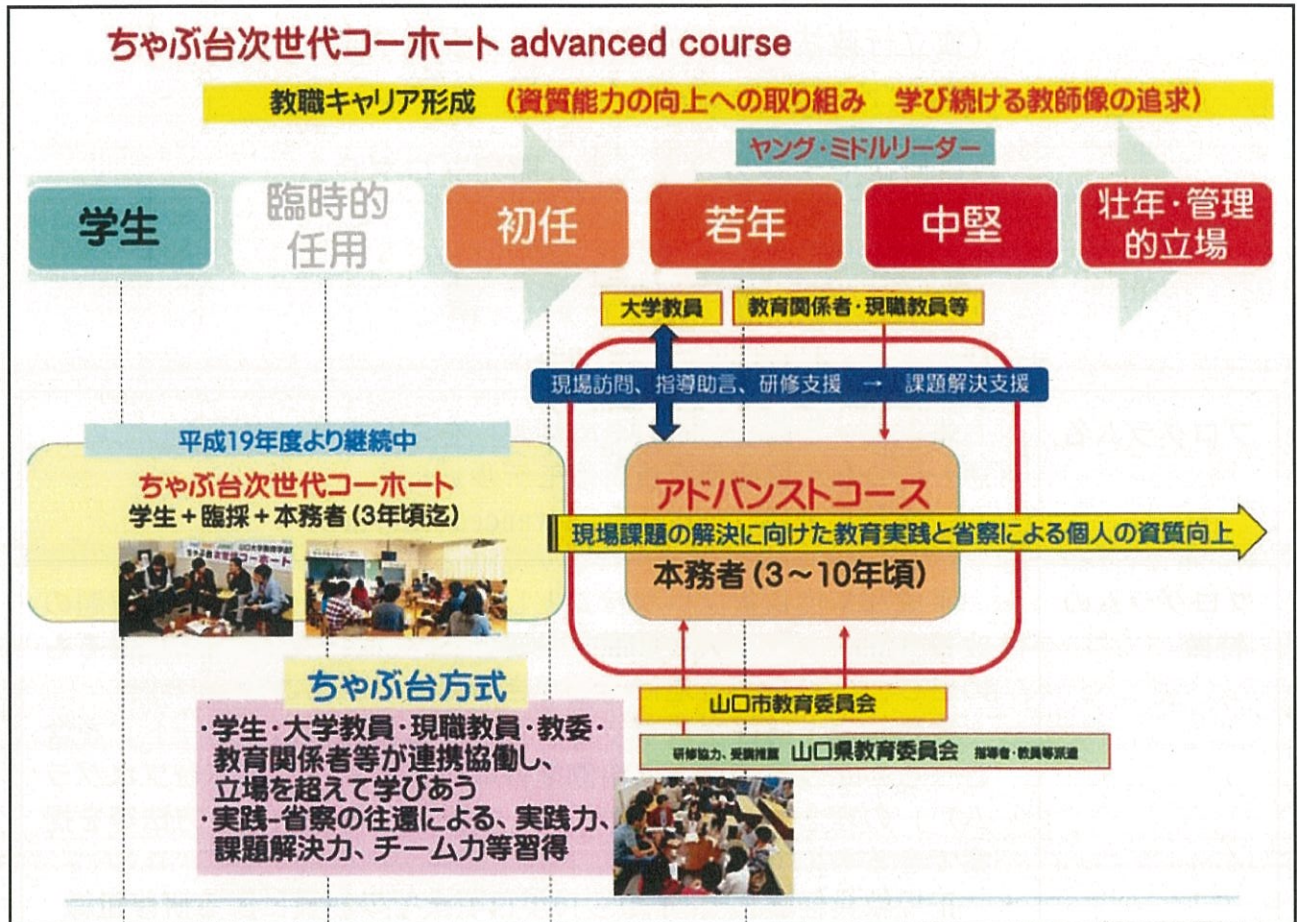
実施報告書

プログラム名	「ちゃぶ台」を囲む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修モデル (ちゃぶ台次世代コーホート advanced course)
プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none">平成26年度採択プログラムとしての成果をより伸長し、課題の改善克服をとおして、現職教員研修プログラムとして確固たるものとし、広く全国各地に提案できるものであること。教員養成・研修プログラム「ちゃぶ台次世代コーホート」を含む「ちゃぶ台方式による協働型教職研修計画（ちゃぶ台プログラム）」の理念や経験を生かした、実効的な研修内容・方法等を提案できるものであること。正規教員経験凡そ3年から10年目頃までの教員による研修組織（ちゃぶ台次世代コーホート advanced course）を設立し、個々の教育実践の成果や課題の共有と省察、教えあい・学びあい等を通じたミドルリーダーとなるための資質能力の蓄積、教職実践課題の解決力、省察力の醸成等を図るものであること。県教委・市教委との協働や学校現場での教職協働実践を充実させ、受講生推薦、学校での実地研修や大学教員派遣による課題研修、協働実践等の充実を図るとともに、教員養成・研修に対する意識改革に資するものであること。実施にあたっては、本学部、山口県・山口市教育委員会で構成する「教育連携推進協議会」のもとに、大学教員、県・市教委担当者、受講者代表で構成する「実行委員会」と「運営委員会」を組織して推進するものであること。同時に、山口県教委が主催する「山口県教員養成等検討協議会」等を通じて、教員養成・研修等の充実深化に積極的に寄与するものとして取り組むものであること。

平成28年3月

山口大学 山口県教育委員会 山口市教育委員会

○「開発プログラム」のイメージ



I はじめに

大学と教育委員会が連携協働し、養成段階から教職生活全体を通じた学びを支援し、教員の資質能力の向上による「学び続ける教員」の育成が求められ、現職研修プログラムの協働開発、支援体制の構築や、教員や管理職に求められる資質能力の解明等に大きな期待が寄せられている。

山口県では、教員の大量退職・新規採用教員の増加期を迎え、大幅な教員の入れ替わりが進み、また、近年、山口県教員採用選考の状況が低倍率で推移していることから、採用後も自らの「教師としての質」を高めていける教員の育成は喫緊の課題である。平成25年度、山口県教育委員会が、大学と教育委員会が一体となった養成・採用・研修の取組を推し進めるため「山口県教員養成等検討協議会」を設置し、高い志、意欲や実践的指導力を有する教員を育てる体制づくりや取組を展開していることは、まさに時宜を得たものと言える。

若年教員は、学校教育推進上の課題がますます高度化、多様化、複雑化する中で、学校活力の向上、知識技能の刷新や「学び続ける教員」としての成長が期待されている。特に今後の教員年齢構成の推移や、主任や校務推進役として活動する機会に恵まれにくくミドルリーダーとしての力量形成が遅れがちな現状等は、早い段階からリーダー的視点をもって取り組めるミドルリーダー候補教員の育成を強く求めている。

一方、学校組織の健全な経営、実効的運営において、校長・教頭等管理職の高いマネジメント能力が問われることは論を俟たない。同時に、学年、校務分掌や教科部会等を先導し「コーディネーター」や「アドバイザー」として機能するミドルリーダーの存在が極めて大きい。ミドルリーダーには、学校経営や組織運営に関する基礎知識や技能、組織内の連絡調整や他の教職員に対

する指導助言等に関するスキルが求められ、学校マネジメントを意識し、人材育成の視点をもって集団統率や分掌運営に携わる力量形成を期待したい。大学と教育委員会はますます連携協働し、現職研修プログラムの改善、高度化を図り、採用初期から計画的、組織的なミドルリーダー養成に取り組む必要がある。

本学部は、地域の教員養成と研修を中核的に担う総合大学（教員養成学部）としての役割や意義を再認識し、教職大学院開設、教員養成に特化した学部改組やカリキュラム改善等を進めている。山口県・山口市教育委員会とますます連携協働し、学校教育や学校運営に大いに貢献する覚悟であり、共に開発したプログラムの実際を具体的に報告し、全国各地の大学や教育委員会による教員研修の活性化に寄与したいと願い取り組んできた。

開発プログラム名

「ちゃぶ台」を囲む若年教員の「夢」をミドルリーダーとしての「志」につなぐ協働型教員研修モデル（ちゃぶ台次世代コーホート advanced course）

開発プログラムの概要

本プログラムは、平成26年度採択プログラムとしての成果をふまえ、正規教員経験がおおよそ3～10年目程度の教員による研修組織（ちゃぶ台次世代コーホート advanced course）を設立し、大学教員、県・市教委指導者、現職教員や教育関係者等との協働のもとで、個々の教育実践、成果や課題の共有と省察、教えあい・学びあいや学校現場での実地研修や大学教員と協働した課題研修等をとおして、ミドルリーダーとしての資質能力の深化、教職実践課題の解決力、省察力の醸成等を図る教員研修モデルプログラムであり、課題研修、実地指導研修とピア・サポートで構成されている。

本プログラムは、本学部、山口県・山口市教育委員会で構成する「教育連携推進協議会」のもとに、大学教員、県・市教委担当者、受講者代表で構成する「実行委」と「運営委」を組織・推進し、大学と教育委員会の一層の連携協働に資するものである。

II 開発の目的・方法・組織

1. 開発の背景と目的

(1) 背景、問題意識等

現在、教育委員会と大学が連携協働し、養成段階から教職生活全体を通じた学びを支援し、教員の資質能力の向上に努めること、そして、大学と教育委員会が連携して教員研修プログラムを開発することが求められている。大学が有する知見を積極的に活用した教員研修の充実、研修プログラムの開発に加えて、大学と学校等とが結びついた実践的研究の拡大、理論と実践の往還による養成教育の充実や教員の意識改革等が求められている。

山口県では、教員の大量退職・新規採用教員の増加期を迎え、今後10年間に約4割の教員が入れ替わる。山口県教育を支えてきた先達の教員たちが積み重ねてきた教員文化や教育力の伝承が課題である。また、教員採用選考志願者数・志願倍率も低倍率で推移し、実践的指導力が十分に身につけていない者や、多様化、複雑化する諸課題に適切に対応できない者も一部に見られる。採用直後から「即戦力としての働き」が求められる「教員としての質」の向上が必要不可欠である。また、教員集団の一角を占める臨時的任用教員も教員採用数の増加により人材不足の傾向にありその質の向上が必要となっている。

こうした中、山口県教育委員会は、大学・県教委が一体となった養成・採用・研修の取組を推し進めるため、教職課程を有する県内全大学と教委、学校等で構成される「山口県教員

養成等検討協議会」を設置し、高い志、意欲や実践的指導力をもち、自信と勇気をもって教壇に立てる教員を育てる体制づくりや取組が進めている。

本学、本学部においても、「地域密接型」教員養成学部としての役割や意義を再確認し、特に山口県教員の養成とその資質能力の向上や、県教育委員会や地域と連携協働した一層の社会貢献を図るべく、学部改組、教職カリキュラム改善や本事業を取り込んだ教職大学院の設置等を行ってきた。

若年教員（自立・向上期）には、学校教育推進上の諸課題がますます高度化、多様化、複雑化する中で、積極的に児童生徒と関わりながら教育活動を行うことにより、学校全体に活力を与える役割がある。このため、学習指導や生徒指導等を行う際に必要な基礎的な知識や技術を基盤とした実践的な指導力が求められる。

これまでは、同僚教員との協働実践、子どもや保護者等との関わりを通じて教員としての資質能力を向上させ、担任、学年主任、分掌主任等の経験を積み重ねる中でミドルリーダーとしての力量形成がなされて来た。しかし、主任や校務推進役として活動する機会に恵まれにくい現状や、教員年齢構成の推移により今後は次代の管理職候補とも言えるミドルリーダーも年齢的に下がると予想され、早い段階からリーダー的視点をもって取り組める人材を育成することが必要となっている。大学と教育委員会が連携協働して、現職研修プログラムの改善、高度化を図り、計画的、継続的なミドルリーダー育成に取り組む必要がある。

また、学校組織は、一般的に「ナベブタ」や「格子状」と称される。年齢や指導力等の差、違いによらない横並び（水平コミュニケーション）を基本とする組織性と、1教員が学年・教科・校務分掌等にまたがり複数業務を兼任する態様を基本とした組織性が絡み合う組織である。校長・教頭等の管理職のマネジメント能力が問われることは論を俟たないが、同時に、自ら学級担任、教科担任として勤務しながら、学年、校務分掌や教科部会等をリードし、年齢、指導力や学年、分掌等を乗り越えての「コーディネーター」や「アドバイザー」として生き生きと働くミドルリーダーの存在が極めて大きい。

ミドルリーダーには組織運営や学校経営につながる基礎知識や技能の修得、組織内の連絡調整や他の教職員に対する指導助言等についての能力が必要である。学校全体のマネジメントを意識し、人材育成の視点をもって組織経営や分掌運営にあたるミドルリーダーの育成が今後の学校経営・運営のカギを握る。

(2) これまでの取組と連携・協働の状況等

本学部と山口県教育委員会、山口市教育委員会は、平成17年12月に「山口大学教育学部・山口県教育委員会、山口市教育委員会の教育連携推進協議会要綱」を定め、教員養成・研修にかかる協議会の設置、各機関の実施事業報告、次年度協働事業の計画等を協議してきた。人事交流面でも小中学校教員の採用（「交流人事教員」）が進み、平成18年度から助教授1人の派遣、平成20年度から2人派遣となり平成27年度は更に1人増員された。日常的な協議や情報交換も積極的に行われており大変良好な関係にある。

また、本学部は、平成17年度以降、「ちゃぶ台」方式による協働型教職研修計画（ちゃぶ台プログラム）として、教職志望学生・大学教員・現職教員・教育行政・関係者等との協働による「地域協働型教職研修」「省察・個別的支援型ちゃぶ台研修交流」「成果集積・共有型機能整備」に取り組む、教員養成・教員研修事業の活性化を図ってきた。

さらに、本学部と山口県教育委員会、山口市教育委員会は、人材育成・教員研修についてのベクトルを共有し、その一貫として、平成21・22年度に、（独）教員研修センター「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」を受け、「若年教員と教職志望学生がちゃぶ台方式でつくる協働型教員研修モデル」を開発し、教職志望学生と現職教員が時と場を共有し、協働して相互の課題解決に取り組むプログラムを広く提案してきた。

昨年度（平成26年度）も、（独）教員研修センター「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」を受け、本報告はその第2年次のものとなる。

(3) 第1年次をふまえたプログラム開発

第2年次にあっては、第1年次の成果と課題をふまえ、プログラム開発の重点を定め実施してきた。第1年次の事後評価において「実践と思いや悩みを共有できる同僚性が必要」として高い評価を得た「ピア・サポート」、著名な全国レベルの講師を招聘し最新動向や高度な専門性を学ぶ「講義演習型研修」について、その拡充を図ることとした。

また、指導主事や社会教育主事を想定した研修会の企画運営や指導助言体験等の薄さや研究手法に戸惑いが見られた「実地指導研究」については工夫改善を行うこととした。

「現場の生の状況や雰囲気等を交換しながら、その時その場で聞いてみたい事例も多くある。双方向の通信とそれらに基づく実践ポートフォリオが蓄積され共有できるとよい」等の評価から、双方向通信によるオンデマンド研修に対する期待感、可能性も感じられた。そこで、「e-ポートフォリオの活用による研修の創造」を図ることとした。

その他、第1年次の成果を踏襲することとし、第1年次開発プログラムの継続実施、学校教員の利便を図る土曜日開催、研修内容や振り返りのWEB（e-ちゃぶ）発信を継続した。

引き続き、研修プログラムは3つの課題別研修で構成した。

①「課題研修A・B」

受講者が、日々の教育実践や学校運営を振り返り、「目指す学校像」や「求める教員像」等と関連づけられた研修課題や実践事例等を持ちより、自主的・自発的・連带的にミドルリーダーへの道を歩む研修を行う。研修会では、次回の研修課題を受講者相互の協議で決定し、実践事例や現状分析等を行ってくる。（課題研修A：要求課題）

ミドルリーダーとして身につけるべき研修課題について、実行委員会や運営委員会等から提示し課題研修を行う。（課題研修B：必要課題）この研修については、山口県の学校教育等有する現代的課題（山口県課題）の現状と課題、分析や解決に向けた提案等を積極的に取り上げ、地域密着型の課題研修プログラムとして展開した。

②「実地指導研修（学校現場での課題研修、協働実践を含む）」

指導助言力や表現力等の向上に資するとともに、自らの教育実践や研修成果を開示・提供しながら「教えることにより学ぶ」研修を行う。分掌主任の擬似的体験や「ちゃぶ台次世代コーホート」を活用した若年教員への指導助言体験等を行う。

学校現場での実地研修や大学教員等との協働による課題研修、協働実践等を行う中で、課題解決に向けた実践的指導力やリーダー性の向上を図る。

③「ピア・サポート」

受講者同士が、各個の体験等に基づき学習指導、生徒指導、学校運営、分掌経営や現代的諸課題等の教育実践上の悩みや不安、成功・失敗体験事例等について自己開示し、課題や問題点の共感的理解課題解決に向けた協議や意見交換等を行い、同じ世代の教職仲間（コーホート）としての連帯感を深め、人間関係やネットワークづくりを行う。

「読売新聞(12月4日)」記事より(掲載許諾済み)

ちやぶ台次世代コーホート Advanced Course 通信
山口大学教育学部(ちやぶ台方式教職研修部)
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事務局
No.10 2015.12.6

読売新聞(全国版)「教育ルネサンス no.2107」に掲載して頂きました。
取材協力ありがとうございました。【全部が拾えなくてゴメンナサイ。】 by 石井正博記者

19 12版 2015年(平成27年)12月4日(金曜日) 5頁

教育ルネサンス 増える教員採用 5

学び育む

中堅リーダー早期育成

山口県の公立学校教員の年齢分布 (2014年度)

年齢	人数
20	0
25	0
30	0
35	0
40	100
45	400
50	500
55	400
59	0

2. 開発の方法と開発・推進の組織

(1) 本学部の特徴ある取組「ちゃぶ台方式」との関わり

本学部は、平成17年度以降「ちゃぶ台方式による協働型教職研修計画（ちゃぶ台プログラム）」として、教職志望学生・大学教員・現職教員・教育関係者等との協働により、実践と省察の往還、経験の共有を柱とする教員養成事業の活性化に取り組んできた。

今日、学校をはじめとした教育現場には様々な現代的な教育課題が山積し、これらの課題に適切に対応できる教員が求められている。しかし、その養成や資質能力の向上は、大学のみで達成されるものではなく、学生、大学教員、現職教員、教育行政関係者や保護者等多くの者の協働による広くより深い学びの保障が必要となる。その中では、これらの関係者は教える者と教えられる者という一方的関係でなく、互いに研鑽し合う関係であるべきである。上座・下座のない丸い「ちゃぶ台」を囲むように、互いの学びを深め合い共有する場と機会を創り、教育現場で生きて働く「臨機之力」を育てたい。本学部は、この理念による協働型教職研修事業（ちゃぶ台プログラム）に取り組んでおり、本プログラムのその一つである。



(2) 開発・推進組織づくりの考え方と構成

本プログラムの開発、推進にあたっては、本学教育学部・山口県教育委員会・山口市教育委員会にて構成する既存組織「教育連携推進協議会」のもとに、大学（教員養成・教員研修事業担当チーム）教員、山口県教育委員会・山口市教育委員会（教員研修事業等担当課）担当者で構成する「実行委員会」を組織し、基本方針、企画検討や評価等を行った。

また、各プログラムや個別の研修行事の企画運営は「運営委員会」が担当することとし、大学教員と「受講生代表」が山口県教育委員会・山口市教育委員会担当者の協力や助言を得ながら計画、準備、運営や評価等を行った。

「実行委員会」は年間3回、「運営委員会」は各研修プログラムの計画、準備や運営等の作業が中心となることから、各プログラム前に実施することとした。「運営委員会」には現職教員がおり、校務等と重なる場合は、電話連絡やメール交換等で進めた。

推進組織の構成、担当・役割分担等は次のとおりである。

「実行委員会」

	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
1	山口県教育庁 教職員課・課長	古西克己	事業検討、講師派遣、各種調査、資料収集	
2	山口市教育委員会 学校教育課・課長	江山稔	事業検討、講師派遣、各種調査、資料収集	
3	教育学部・教授	和泉研二	事業総括	副学部長
4	教育学部・教授	霜川正幸	事業総括（主務者）	実務家教員
5	教育学部・教授	静屋智	事業総括	交流人事教員

「運営委員会」

	所属・職名	氏 名	担 当 ・ 役 割	備 考
1	山口県教育庁教職員課 人事企画班・主査	大 下 康一郎	事業検討、講師派遣、各種 調 査、資料収集	教員研修等担 当
2	山口市教育委員会学校教育 課・副参事	岡 本 壽 之	事業検討、講師派遣、各種 調 査、資料収集	教員研修等担 当
3	やまぐち総合教育支援セ ンター企画室・研究指導主幹	山 縣 佳 洋	事業検討、講師派遣、各種 調 査、資料収集	教員研修セン ター担当
4	教育学部・教授	霜 川 正 幸	事業総括（主務者）	実務家教員
5	教育学部・教授	静 屋 智	事業協力	交流人事教員
6	教育学部・教授	佐々木 司	事業計画・運営	教育学選修
7	教育学部・教授	中 田 充	事業計画・運営	情報教育コース
8	教育学部・講師	藤 上 真 弓	事業協力	実践センター
9	受講者代表（小）	飯 干 新	プログラム計画、運営協力	三和小学校
10	受講者代表（中）	末 村 和 也	プログラム計画、運営協力	平川中学校
11	受講者代表（高）	黒 川 真 美	プログラム計画、運営協力	大門高等学校

本プログラムの開発や推進の体制は、「ちゃぶ台次世代コーホート」の経験から、「実行委員会」が基本方針、企画検討や評価等を行い、「実行委員会」構成団体担当者に受講者代表を加えた「運営委員会」が各研修プログラムの企画運営等を行う形式を採用した。受講者代表を参画させることにより、受講者自らが主体的にプログラムを開発したり、研修行事の企画、準備、運営や評価等に参画することができプログラムの活性化に大いに効果があった。

「実行委員会」は年間6回、「運営委員会」は各研修プログラムの前後に実施した。「運営委員会」に現職教員がいることから、毎回の研修プログラム終了後に行う「交流研修会」の場での意見交換やメール協議等を中心に進めた。

(3) 「実行委員会」、「運営委員会」等、大学と教育委員会の連携の実際

「実行委員会」の実施状況

- ①第1回 平成27年3月24日（火）～「教育連携推進協議会」に合わせて実施～
 参加者 山口県教育委員会（教育次長、審議監、教職員課長、義務教育課長）
 山口市教育委員会（学校教育課長、副参事2人）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、事業担当者、交流人事教員等）
 内 容 ・継続採択の内示を受け、事業方針、計画や推進体制等についての提案と協議
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等
- ②第2回 平成27年6月16日（火）～「山口県教員養成等検討協議会」に合わせて実施～
 参加者 山口県教育委員会（教育次長、審議監、教職員課長、関係各課長、事業担当者等）
 山口市教育委員会（学校教育前課長、小学校長代表）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、研修事業担当者等）
 内 容 ・事業方針、計画や推進体制等についての提案、計画や進捗等報告
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等

- ③第3回 平成27年7月21日（火） ～「県・市教委・大学交流会」に合わせて実施～
 参加者 山口県教育委員会（教育長、教育次長、審議監、関係各課長、事業担当者等）
 山口市教育委員会（学校教育課長、副参事2人）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、研修事業担当者、事業担当者等）
 内 容 ・事業の進捗状況、課題と今後の方向等について報告、意見交換等
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等
- ④第4回 平成27年10月4日（日） ～「教職大学院説明会」後に実施～
 参加者 山口県教育委員会（教職員課班長、事業担当者、教員研修センター担当者等）
 山口市教育委員会（学校教育課副参事）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、研修事業担当者、事業担当者等）
 内 容 ・教職各期の職能発達課題、ミドルリーダー養成等に関する報告、意見交換等
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等
- ⑤第5回 平成28年2月23日（火） ～「初任研担当教員連絡協議会」後に持ち回り実施～
 参加者 山口県教育委員会（義務教育課班長、主幹等）
 山口市教育委員会（研修担当指導主事）
 山口大学教育学部（研修事業担当者等）
 内 容 ・事業全体の報告（成果と課題等）、来年度計画に関する情報交換等
 ・教員研修や初任者の状況等にかかる意見・情報交換等
- ⑥第6回 平成28年3月30日（予定） ～「教育連携推進協議会」に合わせて実施～
 参加者 山口県教育委員会（審議監、教職員課長、義務教育課長、教員研修担当者）
 （予定） 山口市教育委員会（学校教育課長、副参事2人）
 山口大学教育学部（学部長、副学部長、事務長、事業担当者、交流人事教員等）
 内 容 ・事業の総括（事業評価、成果と課題）と来年度計画に関する協議等
 ・教員養成・採用・研修や大学・県教委・市教委の連携等にかかる意見・情報交換等

「運営委員会」の実施状況

- ①第1回 平成27年5月14日（木）
 参加者 山口県教育委員会（義務教育課主査、指導主事：共用会議室にて個別協議）
 山口市教育委員会（学校教育課長、副参事、担当指導主事等）
 山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容 ・山口大学と山口県・山口市との連携協力事業にかかる内容、体制等についての協議
 ・プログラムの推進体制、研修内容・方法、対象受講者等に関する協議等
- ②第2回 平成27年6月1日（月）
 参加者 山口県教育委員会（義務教育課主査、指導主事、教職員課管理主事等）
 山口市教育委員会（指導主事）
 山口大学教育学部（事業担当者）
 内 容 ・プログラムの運営組織、研修計画に関する協議等
- ③第3回 平成27年6月10日（水）
 参加者 山口県教育委員会（教職員課班長、管理主事）
 山口市教育委員会（副参事、指導主事：市教委会議室にて個別協議）
 山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容 ・市町教委、県内学校への広報・推薦依頼や今後の連携に関する協議、打合せ等
 ・ウェブページ配信や大学間連携等に関する協議と講師データの交換等

- ④第4回 平成27年6月20日（土）～「スクールリーダー研修講座」に合わせて実施～
 参加者 山口県教育委員会（教職員課班長、管理主事、義務教育課指導主事等）
 山口市教育委員会（学校教育課指導主事）
 山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容 ・ミドルリーダー養成、山口県の養成・研修事業との相乗等に関する協議、意見交換
 ・研修行事の実施に関する協議等
- ⑤第5回 平成27年10月23日（金）
 参加者 山口県教育委員会（教職員課班長、管理主事）
 山口市教育委員会（学校教育課長、副参事）
 山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容 ・現代的な教育課題と研修プログラムに関する協議、意見交換
 ・研修行事の実施に関する協議等
- ⑥第6回 平成27年12月26日（土）～「Advanced Course」研修会に並行して実施～
 参加者 山口県教育委員会（教職員課管理主事）
 山口市教育委員会（学校教育課指導主事）
 山口大学教育学部（事業関係者）
 内 容 ・事業（前期）の総括、事業（中期）の計画案や連携強化に向けた協議
 ・ミドルリーダーの資質能力等に関する調査課題や次年度の事業に関する意見交換等
- ⑦第7回 平成28年1月26日（火）～「山口県CS推進協議会」に引き続き実施～
 参加者 山口県教育委員会（教職員課・義務教育課主幹、主査）
 山口市教育委員会（学校教育課指導主事）
 山口大学教育学部（事業担当者、実践センター特任教授）
 内 容 ・事業（中～後期）の計画案や連携強化に向けた協議
 ・県・市町教委主催研修とプログラムの整理（内容、形態等）と意見・情報交換
- ⑧第8回 平成28年3月15日（火）
 参加者 山口県教育委員会（教職員課・義務教育課班長、主幹、主査）
 山口市教育委員会（学校教育課副参事、指導主事）
 山口大学教育学部（事業担当者、交流人事教員）
 内 容 ・事業総括、評価と今後の教員養成・採用・研修のあり方にかかる協議、意見交換
 ・次年度の事業方針、企画・運営等にかかる意見・情報交換等

「その他の連携」の状況

- ①運営スタッフ会議（学部スタッフ、受講者代表で随時開催）への助言、支援
 ②山口県教育委員会発行「山口県教育関係人材データベース」（県内の学校・大学等在籍講師リスト）の提供
 ③研修行事への出席と場での指導助言
 ④事業の広報、推奨にかかる支援（県教委ウェブページへの掲載、市町・学校への通送便やメールリストの優先使用）
 ⑤県・市校長会や研修行事等での紹介、広報宣伝
 ⑥県採用前研修会での紹介時間の確保
 ⑦ミドルリーダー養成研修にかかる情報資料の提供 等

Ⅲ 開発の実際とその成果

1. 開発プログラムの広報周知と受講生の確保

(1) 広報周知の実際（「資料編」に関係資料を掲載）

本プログラムは、「学び続ける教師」を目指す若手現職教員が集い、大学や教育委員会等からも将来的ミドルリーダーとしての成長が期待される教員が集う現職教員研修プログラムとはいえ、あくまで自主的、自発的参加を原則としている。「参加できる時に、参加できる範囲や形で、自由に関わる」ことが前提であるため、プログラム自体を、いかに広め、興味関心や意欲を持たせ、「手弁当」で「自腹を切って」でも、週休日に山口に行くという行動につなげるかが重要であった。

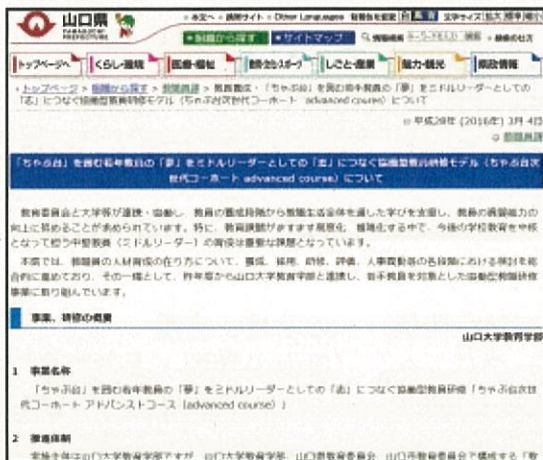
同時に、プログラムを運営する立場からは、ミドルリーダーとして成長するための「必要課題」や、山口県内の学校が有する現代的な教育諸課題をふまえた「山口県課題」を中心に内容（カリキュラム）編成を行い、明確な目指すミドルリーダー像を描きながら、系統的・計画的に学ばせたいという思いが強かった。

これらのことから、本プログラムのような教職キャリア形成上の職能開発課題に特化した研修プログラムの開発・推進においては、山口県教育委員会、山口市教育委員会との連携協力が頼るところが極めて大きく、実際に格段の支援、協力を得た。

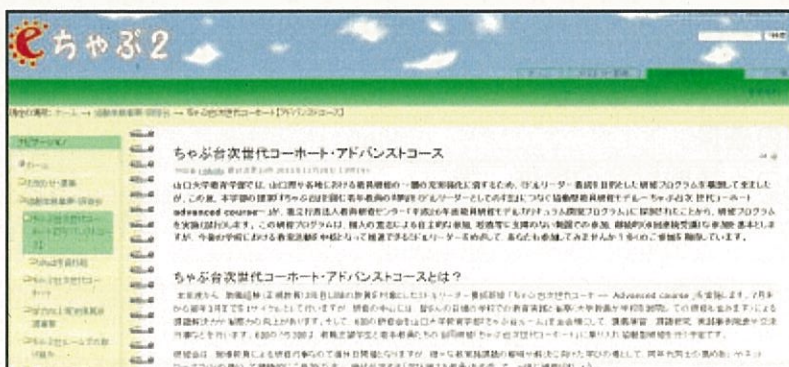
山口県教育委員会（教職員課）は、プログラム構想段階から、全市町教育委員会教育長、全公立高等学校長に対し山口県教育委員会として本プログラムに関わる意義や構えを示し、研修プログラムの広報周知や推奨、各校種の校長会等での広報や協力依頼、山口県教育委員会（教職員課）ホームページへの掲載、「山口県教員養成等検討協議会」での事業や具体的な研修プログラムの説明や受講候補教員の推薦依頼等について多大な協力、支援を行った。

山口市教育委員会も、市立学校・園長会においてプログラム説明と受講候補教員に対する校長からの参加奨励、広報・登録チラシの配布や市内学校宛通送便の使用等の協力を行った。

大学は、教育学部ホームページでの広報周知を行うとともに、「ちゃぶ台次世代コーホート」受講生が移行する可能性もあったことから、同プログラムを受講する現職教員に対し情報提供を行い、プログラムへの参加を呼びかけた。



山口県教育委員会ウェブサイトより



教育学部ウェブサイトより

本プログラムの広報周知では、プログラム開発の意義や目的を明確に示すとともに、対象となる正規教員経験3～10年程度の教員の置かれた状況や教職キャリア形成や職能発達にかかる課題等をふまえ、自主的・自発的な研修意欲・態度や教育諸課題への興味関心を誘発する働きかけとなるよう配慮した。

また、「ちゃぶ台プログラム」の特長を前面に出すことに努め、受講生や大学教員、教育機関担当者や地域の教育関係者等が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、様々な教職実践の開示・共有と省察により、学校教育や教育事象の具体的な理解と、課題解決能力やコミュニケーション能力等の実践的能力を向上させるスタイルであること、「コーホート」に象徴される同年代の教職仲間の連帯性と関係性を重視することを、広報宣伝資料や各種チラシ等に掲載した。

(2) 受講者確保の実際

プログラムの計画当初は20人を予定したが、本年度は18人の登録（参加）が得られた。

昨年度からの継続が10人（小学校3人、中学校1人、高等学校6人）、新たに勤務校の校長から受講を勧められ参加した者が3人（小学校2人、高等学校1人）、「ちゃぶ台次世代コーホート」から移行した者が4人（小学校2、中学校2、高等学校1人）であった。

昨年度よりの継続教員に加えて、新たに校長から勧められ参加した教員は、総じて正規採用前に「臨時的任用教員」として勤務していた者、他県の民間企業等で勤務していた者が多く、年齢的にも「中堅」の域にあった。研修部・生徒指導部・進路指導部等業務に就いており、「自ら主体的に学ぶ研修の必要性を大いに感じていた」、「校内での研修機会の乏しさ、講義受講が中心で主体的参加となりにくい研修スタイル、徒弟的（OJT型）研修の未成熟や校外研修に参加しづらい日常業務の多忙さ等から研修の機を逸していた」と話した者が多かった。若年教員の研修意欲や研修ニーズはかなり高く、プログラムの適宜性と拡充の必要性を理解できた。

小中学校でも校長からの広報周知や参加の奨励、山口県教育委員会や本学部ホームページからの情報収集、教職研修会等での広報宣伝等がなされたと考えるが、参加に繋がらなかった要因として、週休日（土曜日）開講による学校行事や部活動との重なりが指摘できる。県内には、既に月1回程度の「土曜日授業」を開始した市町、学校行事を地域行事化して土曜日に実施する学校やコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の拡大に伴う土曜日活用の変化等が見られる。また、部活動や中学校体育連盟行事等とのバッティングも多く、「参加したいが物理的に難しい」との声も届いている。行政研修との相乗、共存を目指す本プログラムではあるが、運営の在り方について今後も検討していく。

受講者の男女比は男性11人、女性7人であった。本学部や附属教育実践総合センターが主催する教職研修プログラムや「ちゃぶ台次世代コーホート」等では、女性の受講者が圧倒的に多く、研修に対する意欲の「女高男低」が顕著であるが本プログラムでは逆転している。

受講者の反応からは、ミドルリーダーや管理職に向かおうとする意識と研修を求める意欲に関する対象世代の男女差、結婚による家事労働を女性が担うケースの多さと研修時間の不足等が聞かれる。男女共同参画やジェンダーフリーに関する課題も今後の研修に必要と考えた。

番号	県名	校種	性別	所属	職名	年目
1	山口	中	男	山口市立川西中学校	教諭	15
2	山口	中	男	山口市立川西中学校	教諭	10
3	広島	小	男	広島県神石高瀬町立三和小学校	教諭	9
4	山口	高校	男	山口県立柳井高等学校	教諭	7
5	山口	小	男	防府市立華城小学校	教諭	7
6	広島	高校	女	広島県立大門高等学校	教諭	6
7	広島	高校	女	広島県立大門高等学校	教諭	6
8	山口	小	女	周南市立富田西小学校	教諭	6
9	山口	高校	男	山口県立厚狭高等学校	教諭	5
10	山口	高校	男	山口県立西市高等学校	教諭	5
11	山口	中	男	山口市立平川中学校	教諭	5
12	山口	高校	女	山口県立岩国高等学校	教諭	4
13	山口	小	男	下関市立蓋井小学校	教諭	4
14	広島	高校	女	広島県立広島観音高等学校	教諭	3
15	山口	高校	男	山口県立下関西高等学校	教諭	3
16	山口	小	女	周南市立富田西小学校	教諭	3
17	山口	小	女	防府市立玉祖小学校	教諭	3
18	山口	小	男	下関市立豊浦小学校	教諭	2

平成27年度プログラム参加者一覧

「ちゃぶ台次世代コーホート」から移行した受講者の意識については、同プログラムに学生や「臨時的任用教員」時代から参加していた者が多く研修内容や方法に「マンネリ」を感じ始めていたこと、教職経験を重ねる中で教育事象や指導に関する「学び直し」や「捉え直し」が必要と感じていたこと、噴出する教育諸課題を考え指導の在り方を追求する中で「新たな学び」を求めていたこと等の指摘が多かった。教職志望学生・臨時的任用教員・初任から教員経験3～5年程度の正規教員による「教育指導や教育実践の基礎固め」の段階を経て本プログラムに参加し、ミドルリーダー教員としての資質能力を高めようとする学びの流れは、教職キャリア形成や職能発達段階に応じた適切な支援であると認識できた。

2. 開発プログラムの実際（研修内容、講師や研修スタイルの具体）

以下、本プログラムにおいて展開した研修行事の具体を報告するが、各地の大学や教育委員会での実践や利活用に資するため、各研修行事等において作成・使用した資料等の一部については、別刷「報告書（資料編）」で報告・紹介することとし本項では概要を示す。

(1) 課題研修A・B

第1回 平成27年8月1日（土）13：30～17：30

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」

目的

- ①若年教員が、学校課題の解決に向けた教育実践と省察、課題研修やピアサポート等を行うことにより、ミドルリーダーとしての資質能力の獲得や教職実践課題の解決力、省察力の醸成を図る。
- ②協働型教職研修の第1次行事であることをふまえ、今後の研修や実践等に対する意欲、態度や参画意識等の向上を図る。

内容

- ①講演「これからの教育と中堅教員、ミドルリーダーの役割」

講師 山口県防府市教育委員会 教育長 杉山一茂さん

- ②グループ演習「私の勤務校を語る ～学校の強み、よさや特色を見つめる～」

指導者 大学教員（運営スタッフ）

- ③研究協議「今まで出会ったスーパーミドルと今後身につけたい資質能力の解明」

指導者 山口市立平川小学校

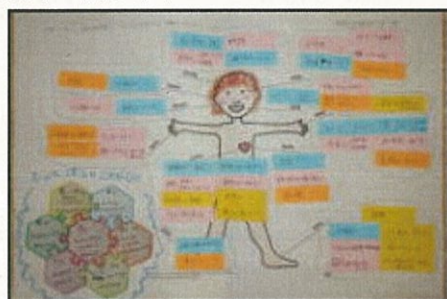
教諭 古屋圭宣さん

指導者 山口県立下関中等教育学校

教諭 山田武志さん

- ④ピア・サポート

参加者 受講者10人、指導者・スタッフ等13人 計23人



ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course 通達
山口大学教育学部(ちゃぶ台方式教職研修部)
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事務局
No.3 2016.8.2

Up to you!

今年も、学校を動かすナイスな「ミドル」をめざして
ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course スタート

本日に思いどおりの「ちゃぶ台ルーム」の第12回2日...「思い」でも「ちゃぶ台ルーム」も第1回...
8月1日、初の「ミドルリーダー」を期待される若手教員10人、研修指導者5人、大学教員（大阪産業...
山口大学の14人）の約23人が「ちゃぶ台ルーム」に集い、思い強い研修を展開しました。3年間でまだま...
だ若い教員から視察「主事・主任」級教員まで、「Differ」らしく活発な議論が交わられた研修会でした。

基調講演 防府市教育委員会 教育長 杉山一茂さん

新教育事跡院や様々な規模の中学校に勤務され、現在は12万市民の教育を担っている...
らっしゃる杉山教育長さん。教育の課題と方向、防府市の教育施策等も盛り込まれながら...
ミドルリーダーとしての役割や働き方、身につけるべき資質能力の具体等について実践...
いっぴいの講演を聞き、本日の行事の価値を改めて、ありがとうございました。

ありがとうございます！（受講者の感想から）

- ・「中堅教員」「ミドルリーダー」の具体的なイメージが出来ていませんでしたが、教育長さんのお話を聞きながら、その役割や期待されるところが具体的に理解できたように思います。（小学校 初参加）
- ・「教員の研修や実践が個人にとどまり学校の財産として広まらない」というお話は大変印象的でした。「チーム」として取り組むことやその重要さを痛感しました。（高校・多職）
- ・「履修（各職）」、実践、経験年数等により、学校教育において大切と思うことは違いますが、その間（ずれ）を埋める話や経験が日常約にできたら良いと感じました。（高校）

**校種別演習 小ちゃぶ 山口市立平川小学校 吉屋圭宣さん
高校ちゃぶ 山口県立下関中等教育学校 山田武志さん**

後半は「今まで出会ったスーパーミドルと今後身につけたい資質能力の解明」テーマに、全員による発表、協議を行った後、お二人から講義と助言を頂きました。さすがご自身が「スーパーミドル」...
内容は白熱ですが、発表を育てる語り方、押し方、聞き方...温かい、思いやり溢れるマールが印象的でした。

ありがとうございます！（受講者の感想から）

- ・今後の10年、どのような教員になるのか明確なビジョンを持ち、ならば、今は何をすべきなのか考えていかなければならないと感じました。（小学校）
- ・自分からアクションを起こす、提案する姿勢が大切だと思った。自分なりに若手教員の指導や支援にも関わっていきなりたいと思った。（小学校）
- ・お互いにシェアした「ミドル像」には共通点があって面白かった。色々な素質をバランスよく身につけていけるといいなと思った。（高校）
- ・今お話しになっている先達方にも多くのお話を聞かせる。先輩教員の話を学んでいきたいと思います。（講師）
- ・先達方のお話はとてもためになりました。同時に、ミドルリーダーの資質能力をまとめた「履修」が深く勉強になりました。「履修」は自分の考えや今の経験を実現するのにとても役立ちます。ミドルリーダーの教員像を再考する上で、何が、どのように正しいか深く考える契機になりました。（高校）

グループ演習 【私の勤務校を語る ～SWOT分析による学校紹介～】

研修お話しづくりを兼ねて演習を行いました。
各校の、Strength・Weakness・opportunity・Threat がよく分かる思ひかな交際会でした。

第2回 平成27年8月29日(土) 13:30~17:30
 会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」
 目的



- ①第1回研修会と同目的
- ②ミドルリーダーに求められる力量形成と課題の検討並びにチーム力を高めるコーチングの実践的理解等をとおして、中堅教員の役割や自らのあり方等について探求する。

内容

- ①講義演習「ミドルリーダーの使命、役割と求められること」

講師 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 安藤福光さん

- ②講義演習「教職員のやる気やチームワークを引き出すコーチング」

講師 別府大学文学部(教職課程) 准教授 佐藤敬子さん

- ③研究協議「個人研究課題と今後の教職実践の検討」

指導者 大学教員(運営スタッフ)

- ④ピア・サポート

参加者 受講者11人、指導者・スタッフ等
 13人 計24人



ちやぶ台世代コーチング Advanced Course 講座
 山口大学教育学部(ちやぶ台式教職研修部)
 教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事務局
 No.3 2015.8.31

Up to you!

真摯な学びを深め、ホジティブに牽引できるミドルに!
 個人のやる気を引き出し、学校を活性化できるミドルに!
 協業の壁を崩れまくる Advanced Course 第2回研修会!

「研修の夜」が似合う8月29日の午後、教員11人、研修講師2人、大学教員(大阪商業大学・山口大)11人の23人が「ちやぶ台ルーム」に集い「第2回研修会」を行いました。研修会からの継続会員は加藤、新加入会員も決まりが揃って来て、活発的・支持的な雰囲気の中で豊かに充実した研修会となりました。今回は全国区でご活躍の2人を招聘しての「講義演習」2本立て、レベルが高く意力ある研修会でした。

講義演習 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 准教授 安藤福光さん
 教職大学院「学校経営コース」教員として、カリキュラム研究やミドルリーダー教育が専門の「安藤先生」。国内外の学力調査結果、調査結果と「日本型」教育実践の抽出、ミドルリーダーとして「日本型」教育実践の強みをどう生かすか等について、具体的なデータや豊富な資料を元に「ワイルドな講義」を頂きました。日本の教育実践、「生きる力」確保に目標をもち、新たな教育活動の創成に踏み出す勇気を買いました。教員免許更新制研修のため「ちやぶ台の山口ツアー」...ありがとうございました。

ありがとうございました!(受講者の感想から)

今まで「学校担任として」、講義や研修に目が向きがちでしたが、見方接し方が変わった気がします。現場教員の目標を失わずに学力アップですが、目標を持って授業づくりに取り組んでいきたいと感じた時間でした。(小学校)
 ポジティブ・アプローチのお話が心に響きました。欠点や欠点を認めるのではなく、プラス思考で物ごとを捉えることの大切さがよく分かった気がします。私自身、もっと「明るい考え方」、「実業家」を大切にすることを意識を持つようにしたいです。(小学校)
 評価の仕方(その方の見方)の違いが面白かった。何人調査では観点評価により改善とすることが決め、正確が何であるか(What)ではなく、どのようにしているか、どのような見方をしているか(How)で評価する。私自身、授業の中でフィードバック・ループバックを採用し、Howで評価しようとしているが、それらの取組を通じて生徒たちの学びも変わってくるのではと考えさせられた。(高等学校)

講義演習 別府大学文学部 准教授 佐藤敬子さん
 講師の、大分県の中学校教員や大分県教育委員会を経て、現在は大学・別府大で教職課程やキャリア教育を担当される「敬子先生」。コーチング、コミュニケーション、生徒指導等のご講義、半信研修等のご経験やご自身の経験や全国各都道府県を歩かれ、まさに「実践はつらつら!」...「ちやぶ台ルーム」会場を使って時間フルのお話とワーク。コーチングの考え方や各都府の具体的なスキルトレーニングまで、まだまだ時間が足りませんでした。きっと4時間は必要だった感で、ありがとうございました。

ありがとうございました!(受講者の感想から)

「コーチングの原則」覚える、認める、任せる」を、2学期から、子どもたちと触るときの重点として意識したいと決めて頂きました。(小学校)
 新任者の職業観でよく聞いた言葉は「○○君ってこんな素敵なところがあるよ!」。現任校でよく聞く言葉は「なんで○○君ってこんなかんね!」。生徒の障害の違いをせむんだらうなあって思いました。(高等学校)
 プラス思考の大切さ、相手を思いやる心と言葉のキャッチボールが大変だと感じました。(中学校)

その他、「今抱えている後輩たちのごと置換した内容で、ぜひ実践したい。」、「生徒や教員との関係や後輩者対応の際にどのように話しかけ、接していくか大変参考になりました。」等多数ありました。

告知! 次回は9月10日(土)、午後13:00~15:00、午後17:00~19:00、夜間研修(夜間)の開催がスタートします!

第3回 平成27年10月3日(土) 9:30~12:30
 会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」
 目的



- ①第1回研修会と同目的
- ②学校(組織)マネジメントの理論、技法等に関する研修や研究協議等をとおして、中堅教員の役割や自らのあり方等について探求する。

内容

- ①講義演習「学校マネジメントとミドルリーダーに求められるスキル」

講師 京都教育大学教育学部 教授 榎原禎宏さん

- ②課題研究(校種別)「個人研究課題の設定と課題解決に向けた今後の取組」

受講生による発表(研究課題の設定、課題の把握と実践の経過等)

受講生とスタッフ(大学教員等)による研究協議、計画立て等

指導者 大学教員(運営スタッフ)

③ピア・サポート

参加者 受講者7人、講師・スタッフ等11人 計18人

「風通しの良い」学校づくりとは、

- ①ある程度は「教育上の自由」が個々の裁量として認められることが、合理的である。
- ②ただし、そのことは、各々の勝手や他者からの疑問・批判を許さないことではない。
- ③「正解」がある。さらにはそれが一つと前提にするために、不幸が生じているのではないか(互いの主張に終始するのは、「正しさ」の本家争いになるからこそではないか)。
- ⇒これらの点で、みなさんの勤務校の状況は？

試してみましょう(2)

- あなたの勤務校はなぜ存立しているのですか、そこで働くあなたの役割は、どんなことだと思いますか。
- 勤務校の存立を支えるあなたのミッションは、どのようなものですか。
- あなたは同僚ほかかにどのように見られていると思いますか、また、どのように見られれば嬉しいですか。
- 今の勤務校を去るとき、どのようなことを感じながら次の勤務地に向かいたいですか。

3. ミドルリーダーとしての「能力」とは

- ①不確定で曖昧な仕事を、どうすれば「よりよく」進められるだろうか。
- ②自分で気づきにくいことを踏まえて、どのように同僚ほか人々と関わっていくことが大切だろうか。
- ③論理だけでなく、感情的にも(種々な)繋がりができるような自身の能力のあり方はどのようなものだろうか。

Up to you! ちやぶ台次世代コーホート Advanced Course 講座
山口大学教育学部「ちやぶ台方式教職研修部」
教員研修モジュールカリキュラム開発プログラム事務局 No.8 2015.10.8

マネジメントの底には何がある？ 実効的な経営感覚って何？ 紐をつくるって？ DAIG的には...「S(しる) W(わんど) C(まけん)」...!?

運動会、県体育大会、芸術文化祭等で学校行事総動員の10月3日。午前中は「第3回Advanced Course」を、午後は「ちやぶ台次世代コーホート」に乗り込んだ「第4回Advanced Course」を行いました。登録会員7人(小・高)、大学教職員10人に講師を加えた18人が「ちやぶ台ルーム」に集まりました。午前と午後は、意識の上では立場を替えての参加となり「学び」も違ったようです。朝9:30から「交流研修会」を終えた〇〇時頃、長い長い研修行事でしたが、終わってあれば「あっという間!」!ありがとうございました。

講義演習 京都教育大学教育学部 教授 神原 裕宏 さん
【学級マネジメントとミドルリーダーに求められる能力】
全国各地の管理職・行政担当者研修会等の講師として超多数の神原先生、学級マネジメントの考え方、学校教育の特性、ドイツと日本の比較検討やミドルリーダーとしての能力等について、サント140分間の講義演習。ユーモアいっぱい!最後は「恋しいときへっ (いつもここから!)」の全員callからの「学校あるある!」 選んだ切り口からの楽しく濃い「マネジメント論」でした。 神原先生、わざわざ京都からのご来学。本当にありがとうございました。

ありがとうございました!(受講者の感想から)

- 楽しく学べました。マネジメントって、いつもシートを使って分析してと、何だかシステムチックにやっていたものという意識がありました。そして効果があるのかな?でも、教員の価値観とのつながりのお話を聞きスツとしました。幅広い教員になりたいと思いました。(小学校)
- 自分が「こうだろう」、「これが当たり前」と思っても、人によって感じ方、受け取り方や価値観は違うわけで、固定観念にとらわれず一人一人の声、考え方をしっかり聴く、生かすことが大切と思いました。(小学校)
- 「マネジメントは手をかけること」というのは納得がいきます。管理監督とは違って、目標設定や課題発見から実行、達成、改善に至るまで、どれだけ手をかけたかが上手く進む、進めることできるコツなんだろうと思いました。(高校)

課題研究 「個人研究課題の設定と課題解決に向けた今後の取組」
午前中の残り時間は、事前に提出された「課題把握・分析・実践シート」と共有し、他受講者の学校や学校課題の様子、今後の改善方法等について共感的・支持的に理解、共有する時間となりました。

「ちやぶ台次世代コーホート」乗り入れ研修 「Advanced Course 受講生として臨む」
やはり「ちょっと先行くお兄さん、お姉さん教員」ですね、本当にそう見えました。グループを盛り上げ、学生や若手教員を巻き込んでサポートし、ある時は自分の経験を語り、ある時は指導助言的メッセージを送り、議論や活動の方向づけや軌道修正を行う...お見事!これもくドルに向かう貴重な学びです。

振り返りシートから
「キラキラした学生さんのお話にハッとさせられたことが多く、初心を忘れちゃいけないと思いました。学生の時期にいた理想と、今思う現実とのギャップを埋められるよう、諦めず頑張っていきたいと思いました。(高校)」
種々な立場からの教職に対する思いを語ったり、思いを語り出すことで、自分自身を振り返ることができ、また初心を思い出すこともでき大変良かったです。現場(経験)教員として、学生さんや若手教員の方々にアドバイスすることもでき貴重な経験になりました。(小学校)

第5回 平成27年11月7日(土) 9:30~12:30

会場 山口大学教育学部「ちやぶ台ルーム」

目的

①第1回研修会と同目的

②学級経営、集団形成に関する科学的な理解と適応指導の在り方等に関する研修や研究協議等をとおして、中堅教員の役割や自らのあり方等について探求する。

内容

①講義演習「学級経営、学級集団づくり、集団の把握と教員の対応」

講師 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 増田 健太郎 さん

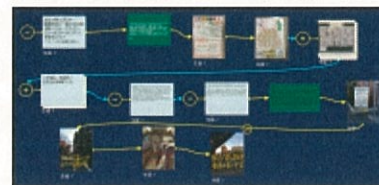
②課題研究「課題研究の充実に向けて～e-ポートフォリオのあり方～」

受講生による発表(課題研究の進捗、成果と課題)と今後に向けた助言

指導者 大学教員(運営スタッフ)

③ピア・サポート

参加者 受講者8人、講師・スタッフ等16人 計24人





Up to you! ちやぶ台次世代コーホート Advanced Course 通算
山口大学教育学部「ちやぶ台方式教育研究」
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事務局
No.9 2016.12.26

「中堅的」思考から「批判的」思考へ、「目標設定と自己決定」の場を準備、「心の動き」を捉えて集団をつくる」...集団形成や経営を科学する臨場感を味わった秋の一時!

学校の文化祭や学習発表会も終了し、「さあやるぞ! 研修するぞ!」と研修開始した11月7日の土曜日、「あたらし」...中堅的や高年層の状況が異なるという研修参加者が多く見受けられた。...
講師 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 増田 博太郎 さん
 「学習経営、学習管理づくり、集団の形成と教育の対応」...
ありがとうございます! (受講者の感想から)
 「私の学校の課題の一つに『知識に基くた子どものモチベーションを上げるか』があります。『自己決定の場の設定や目標を持たせる』に大切だについて考えました。授業や学習経営の中に取り入れて実践したいと考えています。(小学校) ...
課題研究 「個人研究課題の解説とe-ポートフォリオ」
 「中堅的」思考から「批判的」思考へ...
「ちやぶ台次世代コーホート」振り入れ研修 (ピアサポートとして実施)
 「アタラシ」を通じて「コーホート」では、「自分」で学ぶ10名も学ぶ環境を私たち自身が作っていかねばならないと強く感じます。...

第7回 平成27年12月26日 (土) 9:30~12:30
 会場 山口大学教育学部「ちやぶ台ルーム」
 目的

- ①第1回研修会と同目的
- ②特別支援教育、インクルーシブ教育の現状、課題や今後のあり方等に関する研修や個人研究課題の解決に向けた研究協議等を行うことをとおして、中堅教員の役割や自らのあり方等について探求する。

内容

- ①講義演習「特別支援教育の現状や課題を医学的見地から考える」
 講師 鳥取大学大学院医学系研究科 教授 井上 雅彦 さん
 - ②研究協議「課題研究の充実に向けて～e-ポートフォリオの活用～」
 受講生による発表(課題研究の進捗、成果と課題)と今後に向けた助言
 指導者 大学教員(運営スタッフ)
 - ③ピア・サポート
- 参加者 受講者15人、指導者・スタッフ等 12人 計27人



Up to you! ちやぶ台次世代コーホート Advanced Course 通算
山口大学教育学部「ちやぶ台方式教育研究」
教員研修モデルカリキュラム開発プログラム事務局
No.11 2017.12.26

「多様性を受け入れられる柔軟な文化と社会をつくる」...「特別支援教育の現状は、一つ、自らが高機能障害、様々なことばを解決し進め込める文化の創造を可能とする」...

特別支援教育の現状と課題、社会のあり方を国・臨床心理学の視点から考えて

決定...2学期を無事終了させたものの、相変わらず複雑な環境...
講師 鳥取大学大学院医学系研究科(臨床心理学講座) 教授 井上 雅彦 さん
ありがとうございます! (受講者の感想から)
 「自分の指導や環境が生徒の学びに与える影響について...」
課題研究 教員交際日記(双方向e-ポートフォリオ)
「次世代コーホート」振り入れ研修 (ピアサポート、助言指導)
 「振り入れシート」から...
 「次世代コーホート」振り入れ研修 (ピアサポート、助言指導) 振り入れシートから...
 「振り入れシート」から...
 「次世代コーホート」振り入れ研修 (ピアサポート、助言指導) 振り入れシートから...
 「振り入れシート」から...

(2) 実地指導研修

第4回 平成27年10月3日(土) 13:30~17:30

(「ちゃぶ台次世代コーホート」第1回研修会への乗り入れ開催)

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、22番教室

目的

①第1回研修会と同目的

②前向きに挑戦し続けるために必要な見方・考え方、教員に必要なコミュニケーション力、子どもと子どもをつなぐ手立て等について具体的にとらえることができるようにするとともに、今後の協働型教職研修や活動に対する意欲、態度や参画意識等の向上を図る。

内容

①ピア・サポート「研修の仲間づくり、ピア・サポートとは」

指導者 大学教員(運営スタッフ)

②特別講演「イプシロンロケットの挑戦」

講師 JAXA宇宙科学研究所 教授 森田 泰弘さん

③ちゃぶ台演習(実践事例発表、研究協議)

テーマ 「私の教職キャリアや教職への思いの歩みを振り返って」

指導者 アドバンストコース受講者、大学教員(運営スタッフ)

参加者 受講者7人、講師・スタッフ等11人 計18人(全参加者49人)



第6回 平成27年11月1日(土) 13:30~17:30

(「ちゃぶ台次世代コーホート」第2回研修会への乗り入れ開催)

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、22・23・24番教室

目的

①第1回研修会と同目的

②学級・集団づくり、学級集団の組織化や活性化に向けた実践発表・研究協議や、主体的な学習や行動を促すワーク等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

内容

①講義演習「私の学級づくり、学級経営～これからの教員に求められること～」

指導者 周南市立久米小学校 教諭 井口 康江さん

指導者 下関市立川中中学校 教諭 綿井 剛さん

指導者 山口県立豊浦高等学校 教諭 今須 隆晴さん

②ピア・サポート「子どもを伸ばすことに関しての自分」

指導者 大学教員(運営スタッフ)

③特別講演「新たなことを見つけ、新たな価値を創造する」

講師 日本海装株式会社(山口県下松市)

代表取締役社長 今治 総一郎さん

参加者 受講者8人、講師・スタッフ等16人 計24人(全参加者52人)

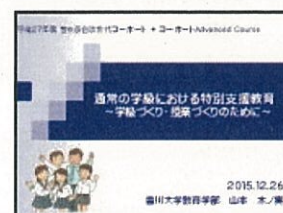


第8回 平成27年12月26日(土) 13:30~17:30

(「ちゃぶ台次世代コーホート」第3回研修会への乗り入れ開催)

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、22・23・24番教室

目的



①第1回研修会と同目的

②特別支援教育の充実や共生社会づくりに向けた講義演習、研究協議、ワーク等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

内 容

①講義演習「通常学級における特別支援教育の考え方」

指導者 香川大学教育学部附属教職支援開発センター
准教授 山本 木ノ実 さん

②ピア・サポート「教員としての見方考え方に関する自分」

指導者 大学教員（運営スタッフ）

③実践事例研究「通常学級における特別支援のあり方」

助言者 長門市立仙崎小学校 教諭 長谷川 真季 さん

助言者 長門市立仙崎中学校 教諭 大西 彩子 さん

助言者 山口県立熊毛北高等学校 教諭 棟近 由美 さん

参加者 受講者15人、講師・スタッフ等12人 計27人（全参加者69人）



第9回 平成28年1月9日（土）13：30～17：30

（「ちゃぶ台次世代コーホート」第4回研修会への乗り入れ開催）

会 場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、11・22・23・24・32・41・43番教室

目 的

①第1回研修会と同目的

②「地域とともにある学校づくり」や「保護者連携」に関する講義演習、グループワーク等により、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。

内 容

①先進実践研究「地域とともにある学校づくり～甲斐市立双葉西小学校の実践～」

指導者 山梨県甲斐市立双葉西小学校 教諭 平 沼 公 香 さん
同 事務主査 山 本 悦 子 さん

②ピア・サポート「フリーテーマによる支持的肯定的支援」

指導者 大学教員（運営スタッフ）

③演習、研究協議「学校（教員）と保護者との信頼関係づくり」

指導者 山口県PTA連合会・山口県公立高等学校PTA連合会役員（保護者代表）

副会長 山 本 裕 史 さん（山口市立秋穂中学校）

副会長 有 元 幸 子 さん（山口市立平川中学校）

副会長 細 野 美 幸 さん（防府市立桑山中学校）

総務委員長 三 宅 和 彦 さん（下松市立久保小学校）

教育問題副委員長 新 升 洋 一 さん（山陽小野田市立本山小学校）

家庭教育副委員長 上 本 敬 子 さん（美祢市立秋芳北中学校）

事務局長 岩 村 智 子 さん（山口県PTA連合会事務局）

事務局員 辻 本 千 夏 さん (山口県PTA連合会事務局)
 会長 上 村 真 一 さん (山口県立大津緑洋高等学校)
 副会長 白 木 美 和 さん (山口県立西京高等学校)
 副会長 藤 井 美保子 さん (山口県立熊毛北高等学校)

その他

今回は「ちゃぶ台次世代コーホート」「同 Advanced Course」受講者と山口県教育委員会による「山口県教師力向上プログラム」(教師力養成講座)受講者による合同研修の形で実施した。

参加者 受講者14人、講師・スタッフ等16人 計30人
 (全参加者114人)



第10回 平成28年2月14日 (土) 13:00~17:40

(「ちゃぶ台次世代コーホート」第5回研修会への乗り入れ開催)

会 場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、11・22・23・24・32・41・43番教室

目 的

- ①第1回研修会と同目的
- ②教科等における学習指導や授業づくりの充実深化に向けた模擬授業、研究・実践事例発表や協議等を行うことをとおして、実践的指導力や研修意欲、態度等の向上を図る。
- ③山口県教委研修センター(やまぐち総合教育支援センター)との連携協働プログラムの活性化を推進する。

内 容

- ①研究発表Ⅰ～Ⅲ(模擬授業、研究発表、実践事例発表)

発表者 山口県下関市立蓋井小学校	教諭 末 永 弘 和 さん
発表者 広島県神石高原町立三和小学校	教諭 飯 干 新 さん
発表者 山口県防府市立華城小学校	教諭 三 木 将 太 さん
発表者 山口県山口市立川西中学校	教諭 森 泰 一 さん
発表者 山口県立西市高等学校	教諭 佐 藤 和 生 さん
発表者 山口県立柳井高等学校	教諭 舛 永 隆 宏 さん
発表者 山口県立厚狭高等学校	教諭 村 上 実 さん
発表者 美祢市立川東小学校(やまぐち総合教育支援センター)	教諭 関 本 幸 司 さん
発表者 下関市立垢田小学校(やまぐち総合教育支援センター)	教諭 吉 谷 亮 さん
発表者 山口市立阿東東中学校(やまぐち総合教育支援センター)	教諭 吉 村 雅 子 さん
発表者 宇部市立黒石小学校(やまぐち総合教育支援センター)	教諭 田 中 哉 佳 さん



発表者 山口県立西京高等学校(やまぐち総合教育支援センター) 教諭 出水 一弘 さん
参加者 受講者16人、講師・スタッフ等14人 計30人(全参加者87人)

第11回 平成28年3月19日(土) 13:30~17:30

(「ちゃぶ台次世代コーホート」第6回研修会への乗り入れ開催)

会場 山口大学教育学部「ちゃぶ台ルーム」、11・22・23番教室

目的

①第1回研修会と同目的

②本年度最終回であることに鑑み、学校教育における現代的課題(学校事故・傷病対応)に関する研修を行うとともに、組織人(教員・企業人)としての生き方、見方考え方や組織のあり方等に関する講演をとおした研修を行う。

内容

①講義演習「教員として知っておきたい児童生徒の傷病、学校事故」

指導者 山口大学医学部附属病院 先進救急医療センター

助教 河村 宜克 さん

②総括講演「レノファ山口の組織づくり、人づくりと皆さんへの期待」

講師 株式会社レノファ山口

取締役広報部長・経営管理部長 柴田 勇樹 さん

③ピア・サポート「1年間を振り返って+仲間の不安、悩みや

相談事項に立ち向う」

指導者 大学教員(運営スタッフ)

④研修のまとめ、閉講行事

参加者 受講者15人、講師・スタッフ等16人 計31人(全参加者75人)



(3) ピア・サポート

本プログラムでは、受講者同士が、各個の教職体験や日々の教職実践等に基づき、学習指導、生徒指導、学校運営、分掌経営や現代的諸課題等の教育実践上の悩みや不安、成功・失敗体験事例等について自己開示し、課題や問題点の共感的理解、課題解決に向けた協議や意見交換等を図り、「同じ世代の教職仲間(コーホート)」としての連帯感を深め、人間関係やネットワークづくりを行っている。ミドルリーダーをめざすという共通の「夢」を語り、「志」につなぐ貴重な研修機会となった。



(4) その他

本プログラムでは、「課題研修A・B」や「実施指導研修」を柱とした様々な研修行事に前

後して「事業運営協議会」を実施した。研修講師として来学した大学教員、管理職等学校教員、教育行政関係者等と大学スタッフが参加し、各地で取り組まれている「ミドルリーダー養成研修」の内容・方法や指導者等の実際、学校現場が求める「ミドルリーダーとして期待される資質能力」、本プログラムに対する評価等について研究協議を行った。本年度は4回(8・10・12・1月)行った。大変有効な会と考えられ今後も継続すべきと考える。

(5) 「e-ポートフォリオ」構築に向けた教職交換日記の試行

本年度の新たな取組みとして、学校現場での課題についての相談や解決策の提案等ができる仕組みを、タブレット端末と授業支援アプリを用いて構築する取組みを行った。これは、現職教員や教職志望学生の学習内容や気づきを記録し、学びの振り返りを支援するための「e-ポートフォリオ」の構築に向けた取組みと言える。具体的には、受講者と大学教員がICT機器を用いて教職に関する情報交換を行うための枠組みを構築し、教職交換日記の試行を行った。使用機材&ソフトウェアは、次のとおりである。

- ・タブレット型PC (iPad mini, Windowsタブレット)
- ・モバイルルーター&データ通信用SIMカード
- ・ロイロノート・スクール (無料体験版) <https://n.loilo.tv/ja/>

学校現場での気づきや実践事例を簡単に共有できるようにカメラ機能を持ったタブレットPCで写真を撮影し、それに対してテキストや手描きで簡単なコメントを書き込み、参加者の間で共有することとした。また、タブレット型PCを所有しない現職教員には、学校や自宅で短い時間で作業ができるようにiPad miniとモバイルルーターを貸与することとした。

情報交換を行うためのプラットフォームとして、授業支援アプリの一つである「ロイロノート・スクール」を採用した。これは、「iOSとWindowsの両方に対応している」、「操作が容易で利用者教育が最低限ですむ」という理由である。これらに加えて、今後急速に学校現場に普及するであろうこの種の授業支援アプリの、授業以外での活用方法を提案する意味も含んでいる。

取組みのイメージは次のとおりである。

- ①受講生が、教職上の課題についての相談、解決策の提案等を、ロイロノートのカードに書いて学部教員に送る (図1)。
- ②カードには、文字、手描きの絵、写真、ビデオを貼付けることができる。
- ③授業中の一場面のビデオ、教室や黒板の写真などのカードに、伝えたいことを書いたカードをつなげる。
- ④学部教員がカード群を閲覧し、コメントを書く、あるいは新しくカードを挿入しそのカード群を受講者に送り返す (図2)。
- ⑤受講者は、つながったカードが増えるので、適宜観点を設定しカードリストを再構成する。その再構成自体が学びになり全体のカード構造自体が学びのポートフォリオになる。

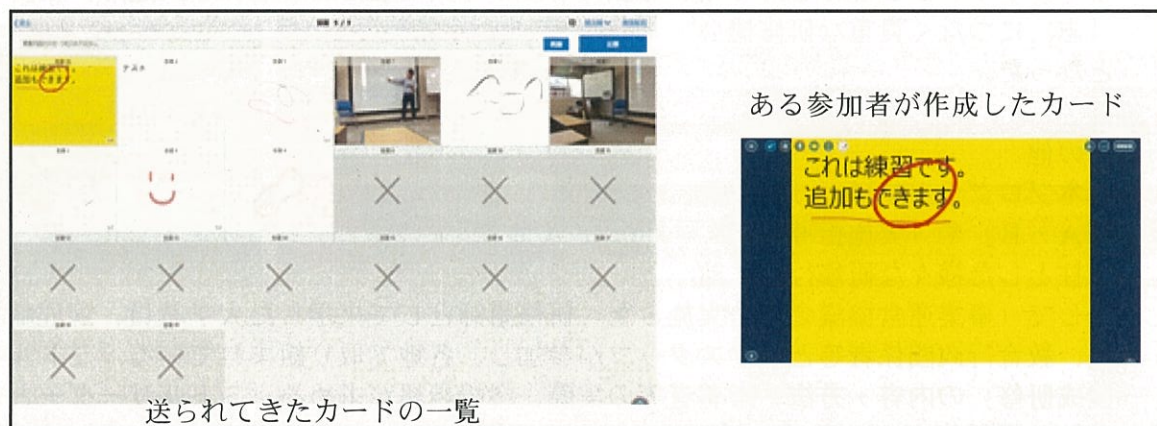


図 1 事前講習会でのスクリーンショット

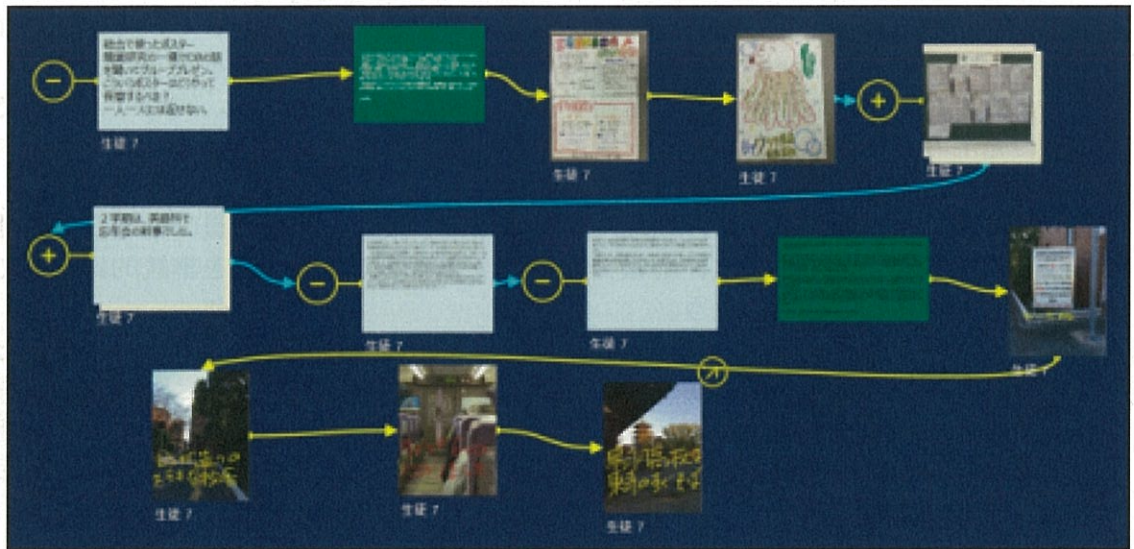


図 2 ある参加者（現職教員）のカード群
（緑のカードは学部教員が挿入したコメント用のカード）

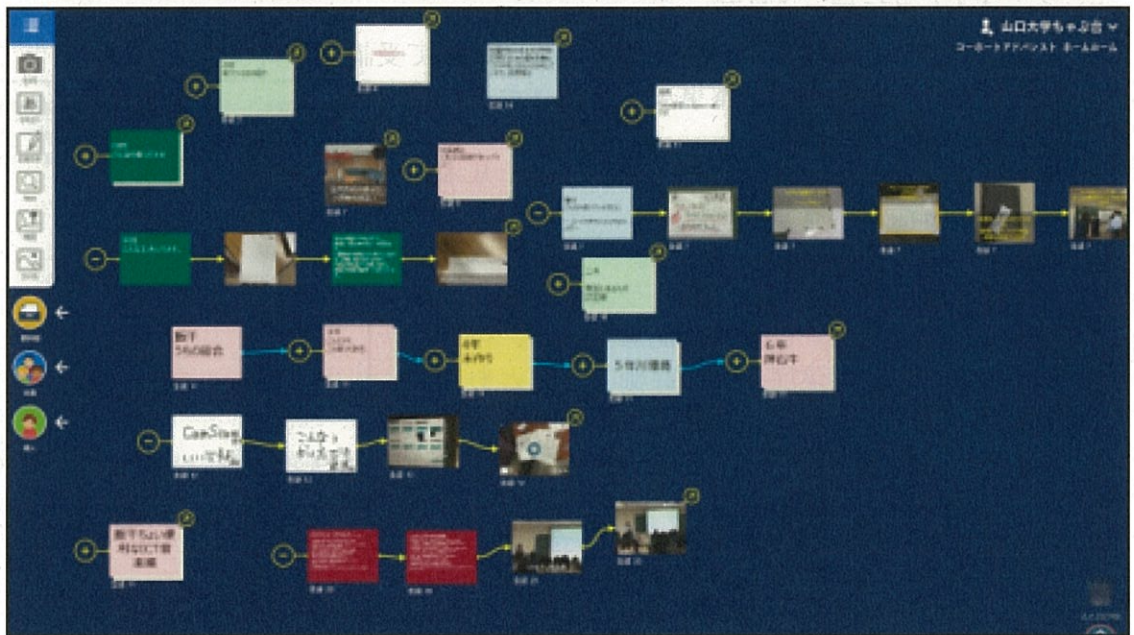


図 3 交換日記体験会の時のスクリーンショット

活動内容や方法等を示す。

①事前講習会の実施

第5回研修会の中で「事前講習」を行い、モバイルルーターや「ロイロノート・スクール」の使い方等を講習した。

②教職交換日記体験会の実施

第7回研修会において、参加者が以下のテーマに関して「ロイロノート・スクール」を用いて情報交換する演習を行った。

（交換日記のテーマ）

- 「私は授業でこうやってます。こんな便利なものがあるよ。」
- 「ここがすごいよ！うちの学校！！」自分の学校自慢をして下さい。
- 「なんか良い方法ない？」
- 「うちの学校のICT」

参加者からは、「この取組は面白いです。アイデアがつながっていくことも面白いし、会員同士での情報共有、経験や様々な視点からの意見交換ができるのもっと面白いと思う。」「iPadやタブレットを使いながら授業をする教員が増えてきた。同時に、現場での取組を大学の先生方と共有でき、省察ツールとしても活用できるとも思える。まずは慣れが肝心！」等の感想が聞かれた。

本年度の取組をとおして、地理的に離れた大学教員と現職教員の情報交換の仕組みの構築はできたと考える。今後は、情報交換の頻度を上げて交換日記を継続的に続けていくための仕掛けを考えることであろう。

タブレット型PCを所有しない現職教員にはiPadとモバイルルーターを貸与したが、iPad等を所有している参加者についても、校内LANを利用することはできないため通信コスト等を考えるとモバイルルーターの貸与が必要である。また、本来は学校の授業で利用する授業支援アプリを転用しているため、参加者からのカードの送信に気づきにくいという問題があった。今後の課題である。

3. 開発プログラムの評価（成果と課題）

(1) プログラムの評価の方法等

本プログラムの評価は、各研修行事に合わせて受講者が行う「自己評価」、プログラム推進途中や終了後に行う「本事業（プログラム）総合評価」により実施した。

受講者による「自己評価」については、基本的に以下の方法で実施することとし、その都度研修方法や内容の工夫改善を行った。

「課題研修A」については、受講者が各自の研修活動（教職実践）と省察を記録集積し、自ら立てた到達目標の到達度を自己評価するとともに、研修行事の中で実施される指導担当教員との研究進捗報告、研究協議、意見交換や受指導等をとおして形成的に行った。

「課題研修B」「実地指導研修」「ピア・サポート」については、各研修行事終了時に受講者が実施する「（自己）評価シート」により行うとともに、運営委員会（スタッフ）が年度途中や終了後に総合的評価を加えることとした。

各個別プログラム担当者においては、事業全体と個別プログラムの関わり、効果、課題等について不断の評価に努めるとともに、受講者の勤務校や教育委員会等との連携を密にし、プログラムの工夫改善に努めた。

ちやぶ台次世代コーホート Advanced Course (第10回) 評価シート 2015/8/1

本日はご出席ありがとうございました。書ける範囲で結構です。自由に書いてください。

1 基調講演「これからの教育と中堅教員、ダブルリーダーの役割」での学び、感想、意見や質問等があれば書いてください。

2 深習「私の勤務校を語る 一学校の強み、よさや特色を見つける～」での学び、感想、意見や質問等があれば書いてください。

3 深習「今まで出会ったスーパーバイスと今後身につけたい資質能力の解説」での学び、感想、意見や質問等があれば書いてください。

4 他の受講者、学外指導者や大学スタッフからの学び、感想、意見や、研修プログラムの企画、運営等に関しての意見、感想や質問等があれば書いてください。

5 あなたの学びの満足度について「5段階」で記入してください。今回の研修内容が全ての項目に關わるとは限りません。「学んでいない」と感じる項目は「0」を記入してください。

5: 全く(しっかり)学んだ	4: かなり学んだ	3: どちらとも言えない
2: やや不十分であった	1: 不十分であった	0: 学んでいない

砂山教育実践講座 学校SWOT紹介 2ドル資質研修 その他(自由記述)

【差し支えなければお名前をお聞かせください】

「（自己）評価シート」の実際

(2) プログラム評価の実際と課題

本年度も、第10回研修会（2月）終了後、受講生に対する「各研修の満足度・感想」アンケートをメール調査の方法で実施した。プログラム全体での「満足度」を問うとともに、「課題研修（外部講師等による講義演習型研修）」「ピア・サポート：受講者相互の課題解決」、「課題研究A：学校現場での課題解決に向けた教職実践と省察」、「実地指導研修：ちやぶ台次世代コーホート等に乗入れている指導助言等体験研修」に区分し評価をさせた。結果について、昨年度（左）と本年度（右）を比較する形で図4に示す。数値は受講者評価の平均値を示したものである。

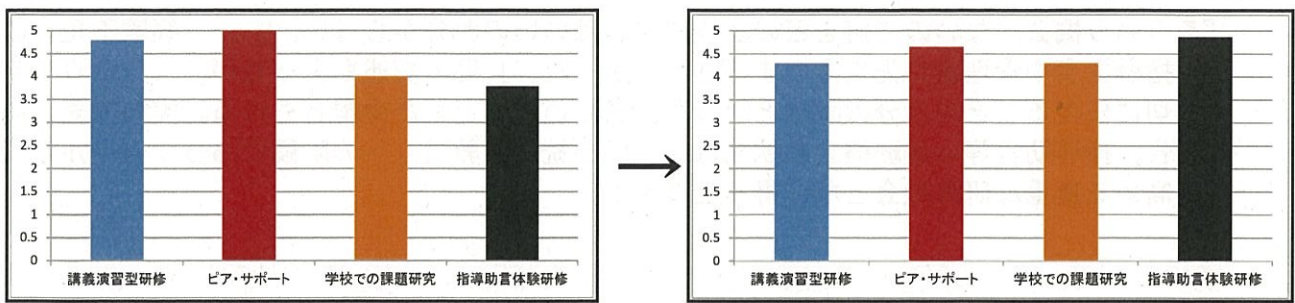


図4: 平成26年度と27年度における「プログラム評価(平均値)の変化」

全体の「満足度」については10段階評価（最高評価10、最低評価1）で問うた。平成26年度の「9.29」が「9.28」と、ほとんど変化がないが、相変わらず高い評価を得た。18人中9人が「10」、全員が「8」以上と回答した。本プログラムがミドルリーダーをめざす受講生の研修ニーズにかなりマッチしたものであると判断できた。

各区分別は図4のとおり5段階評価（最高評価5、最低評価1）で問うた。高評価を得た区分から示すとともに、今後の課題についてふれる。

「ピア・サポート」は「5」から「4.6」へと評価を下げた。「同程度の教職経験者としての信頼感や頼りがい」、「同じ悩みや苦しみの共有、安心感とやる気」を求める点については、プログラム開始時から想定していた要素であり、本プログラム開発の意図したものであったが、本年度は、講義演習型の内容が増えたため各研修行事の中で「ピア・サポート」に割く時間が不足したことが評価を下げたと考えられる。

同時に、本年度も「山口県は初任者研修、フォローアップ研修が充実し、校内人材育成会議もあるので自己成長が図りやすいが、6年次研修後の研修があまりないので同年代同士も疎遠になりやすい。そんな時に同年代教員同士の刺激と切磋琢磨は魅力的」との感想が複数あった。「実践を共有できる協働性」について認識を新たにしたい。今後も「ピア・サポート」の一層の拡充を図りたい。

外部講師等による「講義演習型研修」も「4.79」から「4.3」に評価を下げた。受講生は、「中教審」委員や「文部科学省」担当者と言ったビッグネームを好む傾向があり、より専門性や科学性の高い講師を招聘した本年度のインパクトが弱かったと考えられるが、同時に、全国的動向や教育関係施策等の研修を期待していると捉えることもできる。本年度からの受講者が、昨年度と同様に、「この時期に考えるべき、学ぶべき内容について、レベルの高い理論、全国動向や今後の方向性等にまで絡めて聞いて充実していた。」という自由記述を残しており、今後も教育委員会と連携し、研修内容の精選、相応しい講師の選定や講師データベース化を進めていく。

「学校での課題研究（課題研修A）」は「4.0」から「4.3」に向上した。課題研究自体に不慣れな受講者が多い中、「e-ポートフォリオ」等の取組も始まり、意欲も向上したものと考えられる。課題研究自体に不慣れな現段階では、課題研究の対象（教職実践の中心）が担当学級、教科・領域等に限定されやすいが、次第に視野が広がるよう支援していきたい。

「経験が浅く学年や分掌に目が行かないが、今回の研修は、学校や学年という大きな枠組みの中で自分の学級や分掌も動いていることに気づかされた研修であった。」という自由記述の意味をふまえた研修構想を進めていく。

学校現場を学びの場とした課題研究の充実には、大学教員の関わり方、研修支援の工夫改善が必要となる。この点ではまだまだ多くの課題や不安、不慣れがあり、今後の改善が必要と考えている。

「指導助言体験研修」は「3.79」から「4.8」へ大きく評価を上げた。本年度は昨年度の反省をふまえ、午後の「ちゃぶ台次世代コーホート」の研究協議やピア・サポートにおいて、研究協議の企画運営、進行（講師紹介や謝辞、研究協議題の設定や説明等を含む）や評価等を任せた。当初は戸惑いも見えたが、次第に慣れてきて後半はかなりの成長度を感じさせた。

「そういう機会がないので何をどのようにすればいいのか分からない。」、「経験不足。改めて指導主事や管理職の先生方のすごさが分かった。」等の記述もあったが、「分かりやすく適切に伝えることが自分の課題となった。厳しい。」とした受講者もいる。実践発表、研究報告、指導助言等の体験機会の拡充は、「学び続ける教員」への階段にあってスキルと意欲を高める貴重な研修機会となり得ると考える。

IV 連携による研修の成果と課題

1. ミドルリーダー育成に資する研修スタイルの確立

- ・ 2年間の実践研究をとおして、「緩くつながりながらも、豊かで元気の出るミドルリーダー養成研修」の一つのスタイルを提案することができたと考え、各地での実践に供したいと考えている。

全国的には行政主導の教員研修（専門研修）が多い中、ミドルリーダーに向かう同年代教員が、自主的・自発的に集い、週休日開催を前提に、相互研修組織を構成し、協働教職研修を行う研修スタイル事例は少ない。また、自らの教職実践上の悩み、不安や困難事例等を、自主的に開示し、同年代の仲間と共に解決していこうとする実効的な教員研修のパターンもまだまだ少ないと思われる。

本年度の本プログラム（研修行事等）には、全国各地から、大学・教育委員会・報道機関教育系出版社等から本当に多数の視察や訪問をいただいた。また、日本教育大学協会や教育関係学会等で全国発表の機会も多くいただいた。それだけ、ミドルリーダー養成に対する関心とニーズは高く、今後の課題でもある。

受講者の研修ニーズに応える「課題研修A」、必要課題である「課題研修B」を組み合わせるとともに、教えることにより自らの学びを深化させ学校を舞台に課題探究にも資する「実地指導研修」、同年代同士の研修ならではの充実が期待できる「ピア・サポート」等を通じて協働していくことで、教職にかかる具体的な指導力、実践力に加えて、同僚性、関係性、連帯性等定型化されにくい資質能力（臨機之力）をあぶり出すことができると確信している。

2. 大学と教育委員会との連携協力の拡充

2年間にわたる本プログラム開発にあたり、本学部と山口県教育委員会・市町教育委員会との間では、以下の内容について多大な協力が得られた。

- ①研修内容や方法の検討、講師選定、広報周知や対教委・对学校の連絡調整
- ②受講生確保（受講推薦・推奨等）にかかる教委・学校との共通理解、情報提供
- ③教育委員会主催教員研修等との相乗に関する協議（ミドルリーダー養成研修、経験教員研修、総合的な教師力向上のための調査研究事業、若手人材育成の強化・加速1000日プラン、中堅教員段階の管理職候補者育成プログラム等との相乗）
- ④やまぐち総合教育支援センター、市町教育委員会、教育関係機関等との連携調整

特に、山口県教育委員会・山口市教育委員会とは、カリキュラム作成、講師選定、広報周知、受講者推薦や対市町教育委員会・对学校の連絡調整等に向けた緊密な連携が進展し、多大なご協力ご支援をいただいた。教員の養成・採用・研修の一体化に向けた機運の醸成や教職大学院の充実に向けて、この経験を活かし今後の取組を進めていきたい。

本プログラムが対象とする課題は山口県に限らず全国共通の課題であり、本プログラムの開発は各地のミドルリーダー育成プログラムや私立学校を含む現職教員研修の開発、工夫改善に資する可能性を秘めている。大学と教育委員会には、課題とされるミドルリーダー育成研修に協働してあたりその成果を検証することをとおして、今後の養成・採用・研修の一体化を図る教員養成、教職研修システムを改善することが期待されている。

3. 教員養成系大学・学部における教員養成・研修事業の活性化

本プログラム開発の2年間では、多くの大学教員を本プログラムや学校等現場での課題研修等に参画させることにより、学校現場と結びついた実践的研究の拡大、教員養成や人材育成の充実、教職大学院の充実等につなぐことを期待した。

前述のように、学校現場における課題研究に対する関わりの未成熟の部分を今後の課題として改善していくこととするが、研修内容や方法等の開発の部分では、多くの大学教員の理解と協力が得られ、意識改革と現職教員研修に対する積極的な関わりの雰囲気醸成できた。教職大学院や学部改組等様々な改革とリンクさせながら、今後の取組を活性化させていく。

特に、実務家教員と研究家教員が一体となった取組事例の蓄積、学校現場と結びついた実践的研究の拡大、実務家教員（交流人事教員）のコーディネート機能の充実等で得た経験を今後に生かしていきたい。

V その他

- [キーワード] 協働型教職研修、ミドルリーダーとしての見識とスキル、学校課題の解決、省察力の育成、機関連携
- [人数規模] D. 51名以上（登録受講者数18人、延べ参加者数276人、大学教員・関係者等を含む総研修参加者数562人）
- [研修日数（回数）] D. 11日以上（ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course 11回）
ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course 単独研修5回
ちゃぶ台次世代コーホート 乗り入れ研修6回
- [研究分担者等]
- | | | | |
|-------|-------|-----------|--------------|
| 研究代表： | 岡村康夫 | （山口大学教育学部 | 学部長・教授） |
| 研究担当： | 霜川正幸 | （山口大学教育学部 | ちゃぶ台研修部長・教授） |
| 研究分担： | 和泉研二 | （山口大学教育学部 | 副学部長・教授） |
| | 村上清文 | （山口大学教育学部 | 教授） |
| | 佐々木司 | （山口大学教育学部 | 教授） |
| | 鷹岡 亮 | （山口大学教育学部 | 教授） |
| | 中田 充 | （山口大学教育学部 | 教授） |
| | 静屋 智 | （山口大学教育学部 | 教授） |
| | 前原隆志 | （山口大学教育学部 | 教授） |
| | 長友義彦 | （山口大学教育学部 | 教授） |
| | 松岡敬興 | （山口大学教育学部 | 准教授） |
| | 藤上真弓 | （山口大学教育学部 | 講師） |
| 研究協力： | 佐々廣子 | （山口大学教育学部 | アドバイザー） |
| | 浦田敏明 | （山口大学教育学部 | アドバイザー） |
| | 長砂志保 | （山口大学医学部 | 係長） |
| | 久保田尚子 | （山口大学教育学部 | 事務補佐員） |
- 【問い合わせ先】
- | | |
|----------------------------|------------------------------------|
| 山口大学教育学部 教授 | 霜川正幸 |
| 〒753-8513 山口県山口市大字吉田1677-1 | |
| TEL&FAX：083-933-5458 | E-mail：m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp |
| 山口県教育庁教職員課 主査 | 大下康一郎 |
| 〒753-8513 山口県山口市滝町1-1-1 | |
| TEL&FAX：083-933-4550 | E-mail：a50200@pref.yamaguchi.lg.jp |
| 山口市教育委員会学校教育課 副参事 | 岡本壽之 |
| 〒753-8513 山口県山口市中央5丁目14-22 | |
| TEL&FAX：083-934-2862 | E-mail：gakko@city.yamaguchi.lg.jp |